令和8(2026)年度アクティブ・ラーニングプログラム一覧(秋学期開始)

2026年7月27日
教務課

活動学期:秋学期

No.	プログラム名	カテゴリ	プログラムの概要	単位認定基準	担当教員	認定単位数	対象・募集人数	プログラムへの参加方法	実施曜日時限・場所
7	VR・AR・AI	ICT	3DCG技術やイラスト、動画などの応用技術としてのVR(バーチャルリアリティ)やAR(オーグメンティドリアリティ)の作成に向けて知識をつけることと、AIとの連携などでユーザーインターフェースのプログラムを作成する。 Unityなどのゲームエンジンを使えると作成が楽になる。	【認定基準】 1)週1回の集合時に学習意欲をもって参加していた。 2)事前・事後学修を含み、与えられたテーマをこなし、成果を出した。 3)本講義の目的を理解し、到達目標に至ることができた。 上記の内容を含め、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。 ○評価配分 週1回の集合時にテーマに沿って設定した自分の課題を(事前事後学修成果を含めて)よくこなしている(30%)、積極的発言など(20%)、最終成果への貢献(50%) ・認定される科目名: 「アクティブ・ラーニング実践」	新西誠人 菅沼睦 出原　至道 他ICT関連教員数名	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 学年を問わず、希望があれば何人でも。 ただし、最大30名ぐらいまでが理想。	説明会を10月1日4限、241教室にて行うので参加すること。説明会に参加できない場合には、第2講までに、担当教員に連絡し、説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 木曜4限 ＜教室＞ 241教室
8	データ解析コンペ	ICT	本プログラム「データ解析コンペ」は、実社会や学術分野における実データを題材とし、学生が自ら課題を発見・設定し、適切な解析手法を選択・実装し、その結果を論理的に説明・発表する一連のプロセスを体験するアクティブ・ラーニング型プログラムである。学生は個人またはグループでデータ解析コンペティションに参加し、試行錯誤を重ねながら分析精度や考察の深化を図る。本プログラムは、講義で学修した統計学、情報処理、プログラミング等の知識を実践的に統合・応用する機会を提供するものであり、主体的学修および協働的学修を通じた学修成果を単位として認定することを目的とする。 具体的には、「経営科学系研究部会連合協議会」に参加し、日本計算機統計学会 データ解析スタディーグループにおいてプレゼンを行う。	【認定基準】 活動期間は「2027年1月20日～2027年3月31日」とし、この期間中に、集中的なデータ解析および発表準備として、1回あたり約6時間の活動を週1回、計3回程度実施する。加えて、各回の活動に向けた準備として、データ解析コンペに向けた分析作業や発表資料の作成等に、週あたり約12時間程度の事前・事後学修を要する。 さらに、発表会に参加し約6時間程度の活動を行い、これらを通じて、授業時間相当および事前・事後学修時間を含め、合計約75時間の学修時間を確保する。 単位認定にあたっては、発表会にフルで参加するとともに、自身のチームの発表において、プレゼンテーション、質疑応答、分析担当等、いずれかの役割を担い、主体的に関与していることを具体的な認定基準とする。(発表会の日程においては、説明会時もしくは、11月ごろに情報共有する。) 活動期間が春休みとなるため、単位認定については翌年度の春学期となる(そのため、4年次生は取得不可。)	久保田貴文 新井崇弘	2	【対象】 1～3年次 【募集人数】 5人	7月24日(金)5限目に図書館セミナールームにて説明会を行うので参加すること。 もしくは、7月23日(木)までに担当教員に連絡し、説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 2月4日、2月10日、2月18日の1から4限まで(図書館セミナールームにて)座学の授業を行う。 また、12月中旬と、2月中旬に開催されるコンペの発表会に両方とも参加・出席し、自身のチームのプレゼンを実施する。 ＜教室＞ 図書館セミナールーム
9	囲碁を通じた社会人基礎力養成	その他(社会人基礎力)	背景と目的: 　囲碁は、古い歴史を持つ日本の伝統文化であり、かつ、その独自のルールが国際的に評価されている頭脳スポーツである。囲碁や将棋などの完全情報の対局ゲームでは、プレーヤは、(1)一定時間内に自分自身の判断によって着手を決定しなければならず、(2)着手の結果についてランダム要素の介入する余地なく自ら責任を取る必要があり、(3)対局を通じてルールを守ること・他者を尊重する精神を学ぶことができる。囲碁では、特に、盤面が他の対局型ゲームに比べて広いため、長期的な計画力・バランス感覚・大局観を養成することができる。本プログラムでは、実際に囲碁を学ぶことを通じて、「考え抜く力」「決断力」「計画力」「柔軟性」「主体性」「規律性」を養うことを目的とする。 実施概要: 　本プログラムは、囲碁の未経験者・初心者を対象とする。15回の講義を通じて、9路盤で対局できるようになることを目標とする。前半の7回は、ルールの理解と終局の確認までを指導し、後半では、「石の形」「生死」などを学びながら、9路盤・13路盤での対局を行う。また、後半では、翌週の講義までにオンラインなどで対局を行い、解説を希望する棋譜を持参すること。(履修人数　最大20名)	【認定基準】 ・12 回以上講義に参加すること ・講義外でオンライン対局を行い、25 級相当以上の棋力を有すること ・最終レポートを提出し、合格すること	下井 直毅 ○出原 至道 杉田 文章　他	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 20名	9月29日(火)3限に223教室で説明会を開催する。なお、2回目以降の実施曜日・時限は金曜2限を予定する。受講希望者は必ず出席すること。低学年・成績優秀者を優先して選抜する。	＜実施曜日・時限＞ 金曜日2限(予定) ＜教室＞ 223教室
10	世代継承プログラム_秋	地域研究	本学は2017年度～2019年度にかけて研究ブランディング採択事業として「大都市郊外型高齢化に立ち向かう実践的研究」に取り組んできた。採択期間終了後においても、地域社会に寄与する大学として継続してジェロントロジー(高齢化社会工学)に取り組んでいる。その活動の一環として「地域住民のコミュニティの場を大学が提供する」とともに「多摩地域に数多く存在する既に退職した日本の高度経済成長を牽引した高齢者の活力を、学生世代の若者に継承する」ことを行う。 本プログラムでは、プログラムに参加する学生が、本学が開講する公開講座(リレー講座)を聴講する高齢者の交流の場(サロン)を設けるともに、その交流の中に学生自身が参加して高齢者からの活力の継承を受ける。また、高齢者のこれまでの人生の軌跡や遺したい想いデータとして蓄積する。 本プログラムは2018年度より継続していたが、グループによる近距離での会話を前提とするため2020年度以降はコロナ感染防止の観点から開催を見送っていた。2025年度よりこれを復活させ、2026年度も継続する。	【認定基準】 1)リレー講座後(木曜5時限)にT-Studio2階(予定)で実施する交流サロンの運営に参画し、高齢者と交流する 　2)高齢者との交流、特定高齢者の軌跡や想いを記録する 上記の内容に、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。	小林　英夫	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 15名	10月1日(木)5時限にT-Studio2階でオリエンテーションと参加受付を行う。 10月7日(水)までに参加許可者を決定する。 活動時間が木曜日の4,5時限のため、木曜4時限に特別講座Ⅱを履修しているか他科目を履修していないことと、木曜5時限にホームゼミが無いことを参加の条件とする。	＜実施曜日・時限＞ 10月8日(現代世界解析講座日程により変更の可能性あり)より特別講座講師登壇日の木曜4,5時限に行う。 ＜教室＞ T-Studio 2階
11	高難度中文・関係論文の輪読 Ⅱ	その他(中国語能力向上、中国理解)	中国語能力検定には世界規模のものとして漢語水平考試(中国語発音はHan-yu Shui-ping Kao-shi、その頭文字をとりHSKと呼称)が存在する。このHSK試験は中華人民共和国の教育部(日本の文部科学省に相当)の管下にある中華人民共和国国家漢語国際推広領導小組弁公室(略称は国家漢弁)が実施しており、世界最大規模を誇る。このうち最高難度である6級(最低難度は1級)長文読解問題は特に難問として知られる。また、本学の学部学生が"旧帝"レベル大学院を目指す場合、高度なレベルを求められる語学中国語や専門科目古典中国語に挑むことになる。 そこで本プログラムでは、中国のパワーエリートむけ経済誌の時事解説記事や古典中国語(いわゆる漢文)の長文読解を輪読形式で実施していく。輪読とは、学生一人一人が輪転して読解し解釈を発表した上で互いに解釈の相違を討論する形式のアクティブ・ラーニングである。今次プログラム参加学生は、課題の高難度中国語文について事前予習として日本語翻訳および注釈付与を試み、当日に予習成果の発表を行い、参加学生による相互討論を経た上で、列席の教員が最終添削を行う。	【認定基準】 非常に読解困難な中国語文について、世界最大規模の中中辞典(中国語を中国語で解説する辞典)や関連する資料を利用し読解を試みる。2021年秋学期・2022年度・2023年度では、学生は5行につき10時間(600分)ほどの予習を必要とした。発表につき60分、また事前学修につき600分、事後学修につき30分、合計で690分の学修を15回にわたって実施し、合計10350分(172時間30分)の学修を目指す。テキストの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	水盛　涼一 パートル	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 5名程度	説明会を9月29日(火曜日)4限、図書館3階奥の「ファミレス席」付近にて開催します。受講検討者は必ずご参加ください。	＜実施曜日・時限＞ 火曜日4限 ＜教室＞ 図書館
12	社会工学研究会インターゼミ Ⅱ	その他(学長直卒の調査研究グループ活動)	社会工学研究会(インターゼミ)とは、本学寺島実郎学長が直接指導にあたる研究会であり、学部(経営情報学部・グローバルスタディーズ学部)および大学院(経営情報学研究科)の垣根を越えたゼミ活動をおこなう。なおインターゼミは2年次以上学生につき履修可能科目として設定されているが、学生の成長という要素にかんがみ、特別に1年次学生へのアクティブラーニング実践科目として履修を可能とする(2025年度に開始。なお制度において2021年以前に回帰するもの)。 さて、インターゼミは九段サテライトキャンパス(〒102-0073 東京都千代田区九段北1-9-17寺島文庫ビル3階)で土曜日5限時間帯(16時20分から17時50分、ただし15時45分ごろの参集が望まれる)に開催される。このうち前半の第1部では参加学生による情報共有と学長による週間講話が、後半の第2部では上記「担当教員」のほかグローバルスタディーズ学部教員が加わり学生とともに多摩学、アジアダイナミズム、サービスエンターテインメント、デジタルトランスフォーメーションの各班で研究活動を行う。 なお第2部は各班学生の主体的な学修の成果発表の場であり、およそ先行研究や各種資料による文献研究(literature study)、また現地に出向いて対象に直接ふれる田野調査(field work)といった課外活動に基づく。参加学生のうち学部生はおよそ20歳前後となるが、大学院生はMBA取得を目指す社会人が主体である。 本プログラムでは調査分析および研究提案という作業につき学生みずからが当事者となって社会工学的思考法を身に着けることを目標とする。もちろんその際には学長をはじめとする多数の教員が参与し、学生の成長へ助力していく。	【認定基準】 文献研究と田野調査はともに困難な内容である。少なくとも水盛の参加した2017年以来、学生は学期末の担当部分の論文作成について10時間(600分)ほどの予習を必要とした。その他に上記の班内各週発表でそれぞれ事前・課内・事後の3種に90分ずつの学修を見込む。ここで合計3300分(55時間)の学修を目指す。インターゼミの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	金　美徳 久保田　貴文 杉田　文章 髙橋　彰 寺島　実郎 パートル 平石　隆司 平山　敏弘 水盛　涼一 姚　静雅 (五十音順)	2	【対象】 1年次 【募集人数】 5名程度	説明会を10月1日(木曜日)昼休み、112教室(2限3限に中国語を実施している教室)に開催します。受講検討者は必ずご参加ください。もし特別な理由で参加ができなかった場合には担当教員である水盛に電子メール(mizumori-rr@tama.ac.jp)で連絡のうえ、10月5日(月曜日)あるいは10月6日(火曜日)に対面で説明を受けてください。	＜実施曜日・時限＞ 土曜日5限 ＜教室＞ 九段サテライトキャンパス(寺島文庫ビル3階)

令和8(2026)年度アクティブ・ラーニングプログラム一覧(秋学期開始)

2026年7月27日
教務課

活動学期:秋学期

No.	プログラム名	カテゴリ	プログラムの概要	単位認定基準	担当教員	認定単位数	対象・募集人数	プログラムへの参加方法	実施曜日時限・場所
13	「日本理解」(留学生用科目)	その他(留学生用科目)	日本は外国人にどう見られていたのか、どう思われていたのか。この疑問点を基礎として日本の歴史をたどりながら現代の日本までをまとめた講義内容となります。この科目を履修された留学生は「日本」や「日本文化」、それも昔(江戸時代末期から明治時代を経て)現在、すなわち皆さんが見ている・生活している日本とどう違うのか、変わっていないのかなどについて理解できるようになれば幸いです。 履修者が母国のネットで理解している日本と現実の日本との違い、さらには疑問点などこの科目で理解していただければ幸いです。プログラムは基本的には座学タイプとなります。	【認定基準】 15回の講義の内、12回は出席すること。しかし、経営情報学部の規定は10回出席すれば単位を修得することができます。それでも結構ですが、コメント文(リアクション・ペーパー)を6回提出していただきます。よって、10回出席していたとしてもコメント文が少ない場合は不可となることもございますので、注意してください。講義中の態度で減点することもあります。 コメント文(リアクションペーパー)はスマホ、パソコンの使用は禁止。 自分の日本語力で書くようにしてください。 授業で外にでることも検討しますので、遠慮せずに申し出てください。但し、交通費はは各自の負担になりますので、その点を覚えておいてください。	安田　震一	2	【対象】 1年次 【募集人数】 50名程度	2026年9月29日(火)5限に、101教室に必ず来ること。 なお、過年度に「日本理解」を修得済みの学生は参加できませんのでご承知おきください。	＜実施曜日・時限＞ 火曜日5限 ＜教室＞ 101教室
14	日本語能力試験(N1)対策講座	その他(日本語能力向上)	日常会話で使える口語表現と正式な場所で必要とされる敬語表現を、その場その場の状況に合わせて使いこなせるように。演習を通して表現を覚えて頂きます。 日本語検定n1合格も目標の1つとして、設定、予想問題演習によります、試験によく出る日本語表現と文章読解に挑戦頂きます。	【認定基準】 授業開始時に小テストを毎回行う予定です。また、日本語検定模試を用いた演習授業やプレゼンテーション発表会を行いたいと存じます。成績基準に従い、全受講生が単位を難なく修得出来るように、講義の抑えどころをきちんと評価基準に設定致します。	周 燕	2	【対象】 1年次～4年次 (2024年度以降入学生対象) 【募集人数】 30名程度	9月25日(金)1限に、551教室に必ず来ること。	＜実施曜日・時限＞ 金曜1限、2限 ＜教室＞ 551教室
15	日本語能力試験(N2)対策講座	その他(日本語能力向上)	12月に行われる日本語能力試験(JLPT)対策講座です。大学卒業までにN2以上を取得することを目標とします。前半に語彙・表現の学習を行い、後半は語彙・読解・聴解の演習問題を市販のテキストを使用して行います。 　JLPTの受験にこだわらず、少し上の日本語の学習をめざす学生の皆さんにも参加をお勧めします。	【認定基準】 総回数の3分の1以上欠席した場合は、単位認定の対象としない。 課題やレポートの提出状況、内容を踏まえて総合的に判断。	金田　みちる	2	【対象】 1年次～4年次 (2024年度以降入学生対象) 【募集人数】 30名程度	9月25日(金)1限に、552教室に必ず来ること。	＜実施曜日・時限＞ 金曜1限、2限 ＜教室＞ 552教室
16	高校への探究学習支援	教育機関連携	このプログラムでは、高等学校における「総合的な探究の時間」の学習支援という ボランティア活動を通して、わかりやすく説明する力、コミュニケーション能力、課題解決能力を養うことを目的とする。 【流れ】「総合的な探究の時間」について学ぶ→探究学習支援の方法を学ぶ→実際に高校で探究学習支援ボランティアを行う→振り返りをする ＊担当する高校によって活動時期が異なるため、プログラム内容が前後する可能性がある ＊教職課程を履修している2 年生は、「特別活動・総合的な学習(探究)の時間の指導法」のなかで探究学習支援を行うため履修不要。1・3・4 年の教職課程履修者には、実際に高校現場で教える経験ができるため、積極的に履修してほしい。 ＊教職課程を履修していない学生はもちろん、学習ボランティアを希望する学生は特に積極的に履修してほしい。	【認定基準】 ・ 36 時間～45 時間で2単位 ・担当する高校の学習支援ボランティアに無遅刻無欠席で参加すること (無断遅刻、無断欠席の場合、単位を認定しない) ・活動後のリフレクションシートを提出すること	杵渕 洋美	2	【対象】 1年次～4年次 【募集人数】 設定しない ※日本語が理解できること(N2 相当)	説明会を①9月29日(火)昼休み、112教室　②10月2日(金)昼休み、211教室にて行うので参加すること。 いずれの説明会にも参加できない場合は、個別に第2講までに、担当教員に連絡し、説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 金曜4限 ＜教室＞ 112教室